



沖縄から見える風景はこんなに違う？

3月26日、ウクライナへの侵略戦争が始まって一ヶ月、全日本教職員組合の主催で講演会「沖縄戦 再来の危機」が開かれました（各都道府県から200人以上の参加）。講師は沖縄在住の映画監督・ジャーナリストの三上智恵さんです。群馬県では、県教育会館をサテライト会場とし、高教組本部役員がオンラインで参加しました。今号は、ネットや本土の新聞ではあまり取り上げられていないと思われる三上さんの講演内容を以下にお知らせします。

1. 「南西諸島（鹿児島南海～沖縄～八重山諸島）に攻撃拠点」（12月末報道）

これは沖縄の新聞では大きく報道されましたが、本土での報道は弱いとのこと。沖縄では戦争前夜という重苦しい空気が立ち込めています。現在、国会議員でもウクライナと台湾問題を同列に論じている人がいますが、ウクライナは独立国、台湾は国際的に中国の一地域です。台湾と中国との武力衝突が起きても、西側は国内問題に武力介入できません。アメリカは第三次大戦（核戦争）を避けるためにウクライナに軍隊を出しません、それ以外の理由でも台湾では戦いません。（※台湾問題については様々な論評がありますが、三上氏の解説を続けます）。そのため、名目上は「日米共同作戦」として自衛隊を南西諸島の前面に出し、自衛隊に直接戦わせたいわけです。中国は本土からピンポイントで沖縄にミサイルを打ち込めるため、米軍は沖縄に基地を残しつつ爆撃機をグアムに移転、さらに本土へと移転させています。その結果、日本列島が「第一列島線」となり、さらに「オフショアコントロール」とされ、ウクライナのように大国間戦争の中間地帯となります。日本がそこに攻撃拠点を持てば真っ先に相手からの攻撃地点となりますが、アメリカが本気で守ることはありません。そのため、沖縄は真っ先に激戦地となります。三上さんは「今は戦前である。沖縄県民の危機感本土の人たちにまったく共有されていない」と指摘していました。ウクライナの人たちが「戦争になるはずがない」と思っていたのと同じでは？ ということです。

2. 「国のために命をかけて戦おう！」とならないようにするのが政治！

ゼレンスキー国会演説に感動した国会議員の方に、三上さんは疑問を投げかけていました。外交努力を怠り、交戦状態にしてしまってから国民に「国を守る勇気を持て！」と鼓舞するのは間違っていないか？という疑問です。

今や国防が焦点となりましたが、戦争回避のためにできることは何でしょうか。①自衛隊を軍隊として憲法を変え、更に核兵器を持つこと ②戦後、その実質を骨抜きにされてきた九条の機能を働かせること ③各国からの医学留学希望者を日本に無料で招待し、6年間の教育で医師に育てて各国へ帰すこと（アフガニスタンの中村医師が感謝されたように、憲法の本意通り、世界から尊敬される人材を送り続ける） 三上さんは②と③こそ戦争回避への道と、過去の歴史から解説しました。

3. 教職員が憲法を学べば、子どもたちに戦争回避の方法を教えられる！

ロシアや中国など、全体主義を作る権力者は「言論の自由」を奪います。

私たち教職員が「政府は正しい」と思い込んで（正常性バイアス？）物言わず、学校での自由な意見交換がなくなれば、それは戦争への一歩です。三上さんは、憲法の機能不全を解消しようと提案しています。辺野古や高江で起きている（本土では報道されない）機動隊や海上保安庁の非道を全国の人たちに知ってほしいと訴えています。また、過去の沖縄戦で「日本軍が数千人の住民を殺した」プロセスを知るべき、と教えています。

組合は世界の教職員組合と連帯して労働者の平和な生活を目指します。北海道有事をはじめ、物騒なニュースが続きますが、全国組織の良さを活かして冷静に各地の情報を集め、一方的な宣伝に飲み込まれずに行動していきます。皆で世界平和を目指しましょう！

勤務条件、人事異動についてご相談があれば、下記までどうぞ！

群馬高教組 HP を見てください！

HP はこちらから <http://www.ghtu.org/> →



TEL : 027-231-2784 / FAX : 027-231-2787 / Email : ghtu@educas.jp